

第11回小中一貫教育全国サミット in 武蔵村山実施要項（第3案）

1 開催趣旨

グローバル化社会の進展による社会状況の変化やそれに伴う近年の教育内容の量的・質的充実への対応が求められる中、教育基本法の改正により義務教育の目的が定められるとともに、学校教育法においては、義務教育の目標規定が新設された。

児童・生徒の発達の早期化、中学校進学時の不登校、いじめ問題、いわゆる中1ギャップ等、多様化する教育課題への対応として、小中一貫教育を柱とした「義務教育9年間を見通した教育」の充実が求められている。

本大会の開催を通して、各地域の小中一貫教育への取組について研究を深めるとともに、その成果を広く全国へ発信し、児童・生徒がよりよき社会の形成者として生きていく力を育む機会とする。

2 大会テーマ

夢と希望は自信と誇りから
～義務教育9年間を見通した教育実践～

3 主 催 小中一貫教育全国連絡協議会 武蔵村山市 武蔵村山市教育委員会
第11回小中一貫教育全国サミット武蔵村山大会実行委員会

4 後 援 (予定) 文部科学省 東京都教育委員会
東京都公立小学校長会 東京都公立中学校長会
日本教育新聞社 等

5 期 日 平成28年10月21日(金)・22日(土)

6 開催会場 【1日目】授業公開

<施設一体型> ●武蔵村山市立小中一貫校村山学園
(〒208-0012 東京都武蔵村山市緑が丘 1460 電話 042-561-1754)

<施設隣接型> ●武蔵村山市立小中一貫校大南学園
武蔵村山市立第七小学校
(〒208-0013 東京都武蔵村山市大南 2 丁目 78-1 電話 042-564-1286)
武蔵村山市立第四中学校
(〒208-0013 東京都武蔵村山市大南 2 丁目 79-1 電話 042-564-4341)

<施設分離型> ●武蔵村山市第一中学校区、第三中学校区、第五中学校区
武蔵村山市立第五中学校
(〒208-0034 東京都武蔵村山市残堀 5 丁目 55 電話 042-560-3155)
※一小、二小、三小、八小、九小、十小、雷塚小、一中、三中、五中の特定の学年若しくは学級が授業公開を行う。

【2日目】全体会・分科会

●フォレスト・イン昭和館
(〒196-8601 東京都昭島市昭和の森 電話 042-542-1234)

- 7 参加対象 小中一貫教育全国連絡協議会賛助会員 学校教育関係者
小中一貫教育に関心がある市民・保護者等
- 8 宿泊施設 フォレスト・イン昭和館
(〒196-8601 東京都昭島市昭和の森 電話 042-542-1234)
- 9 参加費 3,000円(事前振込)
※講師、来賓、発表者、本市学校関係者・保護者は対象外
- 10 昼食 2日目の昼食は、フォレスト・イン昭和館に依頼する。

11 申込等

- (1) 大会参加申込・宿泊施設・懇親会・昼食等の申込については、業者委託とする。
(2) 1日目の授業公開参加者は、希望する(事前申請)学校の授業を参観する。

12 日程

【第1日目】10月21日(金)

※授業公開会場 (上記6掲載の学校)

※研究協議会会場 (小中一貫校村山学園・小中一貫校大南学園第四中学校・第五中学校)

13:30	14:00	14:50	15:10	16:30	16:45	17:30	18:20
受付	授業公開	移動	研究協議会 (実践報告会)	諸連絡	バス 移動	全国連 絡協議 会	全国懇親会 (フォレスト・ イン昭和館)

【第2日目】10月22日(土)

※フォレスト・イン昭和館

9:00	9:30	11:30	12:30	13:00	13:30	14:00	15:10	15:25	15:30
受付	分科会	昼食	オープニ ング・ アトラク ション	開会 行事	基調講演	シンポジウム	共同宣言	閉会 行事	諸連絡

13 授業公開について(1日目)

- (1) 授業公開を行う会場は、上記6に掲載の学校とする。
(2) 授業公開は、各会場で1時間(1単位時間)設定する。
(3) 授業公開の内容については、小中一貫教育カリキュラムや小中連携教育推進委員会で作成する実践例等を活用した授業を行う。
(4) 授業公開を行う学習指導案については、武蔵村山市教育委員会がその様式を示す。
(5) 参加者は、原則として「一体型」「隣接型」「分離型」のうちのいずれかの学校の授業を参観する。
(6) 自校以外の会場で授業公開に参加する児童・生徒の移動は借上げバスで行う。
なお、二小・十小は徒歩にて移動する。
(7) 第五中学校における授業公開は、1階が一中校区、2階が三中校区、3階が五中校区とする。
(8) 第五中学校区で行う授業公開は、各学校2～3学級とする。(調整)

14 研究協議会について（1日目）

- (1) 3会場が、それぞれ「一体型」「隣接型」「分離型」の特色を生かした内容とする。
- (2) 中学校区ごとに研究テーマを設定する。
- (3) 研究協議会の内容（70分）
 - ①教育委員会挨拶（3分）
 - ②会場校校長挨拶（3分）
 - ③研究発表（21分）
 - ④質疑・応答（10分）
 - ⑤指導・講評（30分） ※講師は今後選定
 - ⑥謝辞（3分）

15 分科会について（2日目）

- (1) 「施設一体型」「施設隣接型」「施設分離型」の3分科会とする。
- (2) 各分科会ごとに3地区からの事例発表を行う。
※武蔵村山市からは、各分科会で1事例発表する。
- (3) 分科会の内容（120分）
 - ①開会・説明（3分）
 - ②事例発表Ⅰ（25分）
 - ③事例発表Ⅱ（25分）
 - 休憩（10分）
 - ④事例発表Ⅲ（25分）
 - ⑤指導・講評（30分）
 - ⑥事務連絡（2分）

16 基調講演・シンポジウム・共同宣言について（2日目）

小中一貫教育全国連絡協議会と調整を行う。

17 一般参加者等の移動について（1日目）

宿泊施設（フォレスト・イン昭和館）と会場まで（往復）借上げバスを用意する。

18 大会までの予定

年	月	日	内容等
平成27年	6月	9・17日	○小学校及び中学校経営協議会にて概要説明
	7月		●（予算）平成28年度実施計画提出、ヒヤリング
	10月	16日	○第1回実行委員会開催
		8日	○第2回実行委員会開催
		22・23日	○小中一貫教育全国サミット（三条市）
平成28年	1月	29・30日	○小中一貫教育全国サミット（奈良市）
	2月	8日	○第3回実行委員会開催
		29日	●第1次案内発送
	4月	30日	●第2次案内発送
	5月		○第4回実行委員会
	7月	1日	●最終案内発送（申込み）
		日	○第5回実行委員会
		29日	※原稿、学習指導案提出締切
	8月	31日	※申込み締切
	9月		○第6回実行委員会
	10月	21・22日	○大会当日
11月	日	○第7回実行委員会	

19 大会実行委員会・事務局組織

役 職 名	氏 名	所 属 等
顧 問		小中一貫教育連絡協議会
	藤江 康彦	東京大学大学院准教授 武蔵村山市立小中一貫校の在り方検討委員会委員長
実行委員会委員長	持田 浩志	武蔵村山市教育委員会教育長
実行委員会副委員長	齋藤 実	武蔵村山市公立小・中学校校長会会長 武蔵村山市立小中一貫校村山学園統括校長
	鶴田 浩二	武蔵村山市公立小学校長会会長 武蔵村山市立第一小学校長
	小野江 隆	武蔵村山市立小中一貫校大南学園第七小学校長
	清水 実	武蔵村山市立小中一貫校大南学園第四中学校長
	神 尚信	武蔵村山市立第十小学校統括校長
	井口 寛隆	武蔵村山市立第五中学校長
実行委員会委員	池谷 光二	武蔵村山市立第二小学校長
	前川 潤	武蔵村山市立第三小学校長
	牧 一彦	武蔵村山市立第八小学校長
	五十嵐誠一	武蔵村山市立第九小学校長
	井内 潔	武蔵村山市立雷塚小学校長
	島田 治	武蔵村山市立第一中学校長
	栗原伊知郎	武蔵村山市立第三中学校長
	内野 正利	武蔵村山市教育委員会教育部長
	佐藤 敏数	武蔵村山市教育委員会学校教育担当部長
	森田 裕	武蔵村山市立小中一貫校大南学園第七小学校 学校運営協議会会長
	鈴木 成夫	武蔵村山市立第十小学校学校運営協議会会長
	荒澤みや子	武蔵村山市立小中一貫校村山学園 学校運営協議会会長
事務局長	小嶺 大進	武蔵村山市教育委員会指導担当参事
事務局次長	勝山 朗	武蔵村山市立小中一貫校村山学園統括副校長
	加納 直樹	武蔵村山市立小中一貫校大南学園第七小学校副校長
	和田 直樹	武蔵村山市立小中一貫校大南学園第四中学校副校長
	長沼 正城	武蔵村山市立第十小学校副校長
	田中 一郎	武蔵村山市立第五中学校副校長
事務局委員	村上 正昭	武蔵村山市教育委員会指導主事
	赤坂 弘樹	武蔵村山市教育委員会指導主事
	鳴川 和広	武蔵村山市教育委員会教育指導課主査
	長田 康二	武蔵村山市教育委員会教育指導課副主査
	照屋 裕至	武蔵村山市教育委員会教育指導課主任
	※石島 照代	東京大学教育学研究科 村山学園客員研究員